

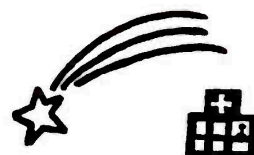
発がんの最大の要因は「がんに関連する遺伝子に起こる偶発的な損傷」です。がんは運・不運に左右される病気だといえます。

喫煙や飲酒などは遺伝子にできるキズの発生頻度を高めます。運動やカロリー制限は損傷の頻度を下げますが、どんなに立派な生活をしていても、生きていくだけで遺伝子には「経年劣化」が起こります。加齢とともに、がんがでやすくなるのはこのためです。

ヘビースモーカーで大酒飲みでもがんにならない運のよい人もいます。逆に、完璧な生活習慣でもがんになることがあります。検診もすべてのがんを見つけることは不可能です。がんには運の要素もある

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

のはラッキーでした。酒飲みでなければ、肝臓の超音波検査もしなかったと思います。まさに、「禍福はあざなえる縄のごとし」です。

や行動である程度までコントロールが可能で、生活習慣を整えることで、がんのリスクを大きく減らすことができます。さらに、運悪く、がんになっても、がん検診で早期に発見すれば、9割以上完治します。がんの運・不運は、交通事故や天災といった不可抗力とは別だといえるでしょう。何事も「人事を尽くして天命を待つ」ことが大切ですが、がんとの向き合い方も同様だと思えます。

不運、知識と行動で克服

ることは確かです。

私は膀胱(ぼうこう)のがんを「自己超音波検査」で早期発見し、昨年末に内視鏡治療を受けました。膀胱がんを増やす要因として分かっている

るのは喫煙だけ。私はたばこを吸いませぬから、発がんの理由は「不運」ということになるでしょう。とは言っても、脂肪肝のチェックで、偶然、早期の膀胱がんを発見できた

ですが、運の要素を否定することはできません。がんは人生の他のほとんど

の出来事と同じく、運に左右される病気です。しかし、がんにまつわる運・不運は知識

(東京大学病院准教授)